

2022.11.2  
第15回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会

資料 1

## 意見交換会の今後の進め方について

---

副首都推進局

# 今後の意見交換会について

## 今後の進め方

中間論点整理の積み残し、深掘りが必要な項目について議論を進める。  
議論の期間に限りもあることから、とりわけ先日(9/29)開催された第7回副首都推進本部(大阪府市)会議や府議会・市会において意見があった主な項目等に絞って意見交換会を開催する。

## 関係各所からの主な意見（議論の項目として考えられるもの）

### 【訴求力・目標】

- 中間論点整理では、大阪のめざす副首都の核心を「経済副首都」の実現としており、それを踏まえ、**府民が共感できる（府民に訴求できる）明解なイメージ**についての議論が必要ではないか。  
(何を中心に据え、何を重点的に打ち出すのか。)
- 副首都にふさわしい**具体的な目標、目標年次、工程**の設定に関する議論が必要ではないか。

### 【都市機能】

- **大阪が都市として持っている強みをどう生かすのか**一定の絞り込みが必要ではないか。
  - ・ **世界に伍する都市として備えるべき都市機能**について、さらなる議論が必要ではないか。

### 【制度】

- **制度面の深掘り**が必要ではないか。
  - ・ **大阪自らの取組と国との関係（バックアップ含む）**などについて議論が必要ではないか。

# ■ 第7回副首都推進本部（大阪府市）会議における主な意見（要約）

## 【経済副首都、行政・政治副首都】

- 経済を強くすることが副首都としての認知につながるというのは当然であり、異論はない。
- 今までめざしてきたのは、世界のなかで大都市としての存在感を出し、認知されること。
- 経済と制度・統治機構は密接に関係する。制度については、新たな創造という視点で議論してほしい。どんな仕組みが行政副首都として正しいのかゼロベースで考えてほしい。
- 行政副首都と考えるといっても、省庁移転は無理で、そのまちの制度の在り方はまち自身で決めるべき。ただ、それは経済モデルだけではないと思う。
- 広域の行政体について京阪神など制度的な枠組みが必要。また、国における副首都の位置づけを制度的に担保すべき。
- バックアップについて深掘りすべき。また、大都市地域の府県は空洞化しており、府県制度の見直しが必要。
- 分権化の側面が停滞。第2の都区制度を大阪から発信してはどうか。
- 国に副首都形成法を提案して、世論を喚起したほうがよい。

## 【都市機能】

- 大阪のような巨大都市では、特定の産業で盛り立てようという経済モデルの探求ではなく、雑多なものが集まった相対的優位性をPRすべき。
- 経済的な活動が活発になったからといってイコール副首都ではない。その場合にどう都市機能や役割を担うかが明確でないと府民にはわかりづらい。

## 【わかりやすさ・共感】

- 成長戦略でも、健康・医療関連産業をはじめ五つの重点分野に力点を置いて大阪を成長させようとしており、成長戦略との違いが分かりにくい。
- 現行ビジョンの四つの役割の総括が必要。
- ウェルビーイングや社会課題など、住民に共感が得られるところの議論の深掘りを。

## 【目標設定・工程】

- GDPは今の大阪と東京の間くらい、所得も東京に次ぐなど、目標が要るのでは。工程もしっかり管理を。10年後くらいの域内総生産の目標値を定めてほしい。
- 今の取組はさらに強化。安全なまちづくりはさらに進め、学力についても、現在目標としている全国平均超えをめざして引き続き取り組むべき。
- どういう工程でやっていくのか、といったことや、到達点の検証もしっかり行ってほしい。

## ■ 大阪府議会・大阪市会における主な意見（要約）①

### 【経済副首都、行政・政治副首都】

- 経済モデルは大阪の成長にとって不可欠。
- 大阪が副首都として位置付けられるのも重要だが、より重要なのは位置づけよりも内実。大阪自ら努力して、経済をはじめ都市力を高めるのが重要。
- 具体的に、規制改革をはじめとする法改正や特区設置の方向性、その内容を示すべき。
- 大阪が、世界とわたり合うのをめざすよりも、東京、首都圏に経済を一極集中させて、世界と戦える都市として発展させていき、富の分配をしっかりとするという制度も一つの方法。

⇒ 東京が首都として成長していくのはぜひやってほしい。ただ、東京一極集中が成功しているかという点、30年間日本だけが成長しておらず、都市戦略として間違っている。東京以外にも世界と伍して成長するような都市を複数作ることが重要。それをリードするのが大阪であるべき。

- 経済機能の向上は当然必要。また、政治・行政機能を含めたバックアップ機能も重要。経済機能と政治・行政機能との関係、政治・行政機能充実の道筋や方策について議論を深めてほしい。（バックアップが第二義的機能というのは違う。）

⇒ バックアップは大きな課題と認識。そのバックアップを担うためにも、まずは、大阪が自らの力で経済ポテンシャルを高めていくことが重要。そうすることが、経済面でのバックアップ機能、さらには、政治・行政面でのバックアップ機能を備えた副首都・大阪の実現につながっていくものと考えている。

### 【人の力（人的基盤）、若者】

- 流動性の高い都市は、生産性も高い。成長のためには、流動性を高め、何度もチャレンジできる社会を。
- 「人」は教育や雇用、人材育成、女性活躍、外国人の支援など、幅広い観点で検討必要。
- 大阪の未来を担う若者の視点が鍵。若者はじめ多くの人から選ばれる、魅力ある副首都へ。

## ■ 大阪府議会・大阪市会における主な意見（要約）②

### 【副首都の圏域】

- 副首都をめざすにあたり、関西全体で副首都圏をめざすべき。

⇒ 今後の日本の統治機構を考えるうえで、府県を超える広域行政の枠組みを考えていくことは重要。現行の副首都ビジョンでも、京阪神、関西の都市機能の向上が必要としている。まずは、関西の中心である大阪府が大阪市とともに責任をもって、副首都をめざしていくべきだと考えている。

### 【共感】

- ビジョンのバージョンアップは誰もが理解でき、共感できるものにすべき。
- 「大阪は良くなっている、良くしていくべき」という府民意識こそが経済活性化に不可欠。
- 府民が共感し、ワクワクする大阪の未来をどう感じてもらえるかが重要。どんなものが挙げられているのか。

⇒ 「若者を重視」「東京へ流出していた若者が大阪にとどまるなど、若者が活躍できるまちにすることが必要」「多様な人材が生まれ、活躍できる環境づくりが重要」「若者の意識等を踏まえ、経済産業のイノベーションや、産業構造の転換を単体で考えるのではなく、ウェルビーイングの向上や社会課題の解決と一体で考えていく」「健康データの活用により新たなサービスが受けられるなどの住民起点の関係性を重視」「人中心のくらしやすいウォークアブルシティの重要性を示していること」など

### 【目標設定、目標年次、実効性を担保する仕組み】

- ターゲットイヤーやK P I の設定、ビジョンの実効性をあげるための具体的な動きが必要。

⇒ 訴求力のある共通目標や目標年次、工程の設定などについて、意見交換会において議論を深めていく。また、副首都ビジョンの実効性を担保する仕組みなどについて、各局と緊密に連携し取り組んでいくのはもとより、意見交換会において様々な意見を伺いつつ、副首都推進局としてしっかり考えてまいりたい。

## ■ 第14回意見交換会（8.29）における主な意見（要約）①

### 【強みと弱み】

- ライフサイエンス等の基幹産業や中小企業の多さ、地域コミュニティも含めた住民の特徴などを、どう混ぜ合わせて面白いことができるか、万博やI Rも含めて、考えていくべきでは。
- 治安や教育などの弱みを分析し、どのように解決するか検討が必要ではないか。（こうした問題は、所得に起因する部分があるのではないか。）
- 教育においては、将来の投資という意味において、大阪について理解を深めるということも重要になるのではないか。

### 【人の力（人的基盤）】

- 大阪の成長にあたり、住む人や集う人が豊かになり、自分自身の成長や、自分事として関わることで社会課題の解決に貢献していると感じられるような環境を作るべきではないか。
- 自己肯定感を高め、自信ある人材を育てるため、どのような教育が必要か検討すべきではないか。  
自律型人材の育成に際し、自分の市場価値を表明できる学びの可視化が必要ではないか。
- 新しいものを生むため、他人の考え、多様性を認める寛容さ、共感力が求められるのでは。
- 人材育成については短期と長期で時間軸を分けて考えていく必要があるのではないか。  
（短期：人的交流の場の醸成、長期：大学での人材育成）
- 外国人の活躍も重要だが、まずは女性の活躍に優先的に取り組むべきではないか。

### 【産官学の連携・民間との役割分担】

- 経済的副首都をめざすうえで、民間のビジネス領域をどこまで書き込むのか、また、民間の選択と集中についてどこまで意思決定できるのか、初めに考えるべきではないか。そのうえで、共助やコンソーシアムの仕組みなど、行政がどう下支えをするのか考えるべきではないか。
- 産官学連携を進めるうえで、それぞれの組織文化をうまく擦り合わせる必要があるのではないか。

## ■ 第14回意見交換会（8.29）における主な意見（要約）②

### 【市町村連携】

- 市町村連携をリードしていく主体として、広域自治体である大阪府が、広域的な観点で積極的に介入していくということも今後求められるのではないかと。

### 【共感・訴求力】

- 副首都や東西二極の一極という考え方には幅があり、最終的には関西あるいは西日本、さらには国全体の理解と共感が必要ではないかと。

### 【目標設定】

- 西日本から大阪への流入人口の指標があるとよいのでは。その際、社会増と自然増を分けて分析するべきではないかと。

### 【ビジョンの実効性を担保する仕組み（推進体制）】

- ビジョンの推進体制や管理の方法、大阪府市の施策にどう生かしていくか、そういった進行管理、目標管理、時間軸についての議論も必要ではないかと。

# 今後のスケジュール（イメージ）

## 意見交換会

本日

- 意見交換会の今後の進め方について
- わかりやすいビジョンに向けて

○ 副首都を支える都市機能

○ 副首都を支える仕組み、国との関係、  
首都機能のバックアップ

- 目標設定
- 目標年次、工程 など

○ 全体議論の整理、まとめ

全体で5回程度を想定

※ 各回テーマは議論の進展状況により柔軟に対応

## 副首都推進局

議論を  
適宜  
反映  
していく

ビジョンの  
バージョンアップ  
作業

2023年（令和5年）当初

ビジョンバージョンアップ案